

雇用促進・就労定着プロジェクト 就労系障がい福祉サービス見学報告会

令和元年 10 月 28 日

9 月 9 日・9 月 19 日・10 月 4 日の 3 回に渡り、就労系障がい福祉サービス事業所見学を行いました。ご協力をいただいた事業所の皆様、ありがとうございました。

このプロジェクトの目的は、「雇用している社員の個別的なサポートに関する悩みや課題の解決」「企業間の情報交換の場」「新規就職者獲得」を企業同士で学び、検討する場を持つことです。自らの学びを深めるだけではなく、求職者や就労している障がいを持たれた方の定着に対しても、企業目線での意見や情報の発信をしていきたいと考え、地域状況の把握をするべく、福祉サービスの見学会を行いました。

過日、プロジェクトメンバーで見学会の振り返りと、地域や企業の課題、今後の我々の活動を話し合う場を設けました。事業所内で行っている配慮は、企業にとっては当たり前のことではなく、大変学びの多い見学となりました。また、利用されている方たちと話をする機会をいただけたことは、雇用する側の準備や心構えを改めて考える良い機会となりました。以下、報告会で上がった話の概要についてお知らせいたします。

<見学で感じた印象について>

見学を行ったプロジェクトメンバーと帯広市障害福祉課職員 22 名中 21 名が、初めての事業所見学であり、利用している方の多さに驚いたというのが初めの印象です。どのような障がいなのか分からない方も多く、若い人が夢を持って仕事をしている感じを受けました。また、9 カ所見学をすることで、事業所それぞれの理念やスタンスの違いがあらわになると感じました。

<事業所見学で学んだこと>

仕事の細分化や環境設定、マニュアル化、事業所内の OJT など、様々な配慮を見ることができました。自由度を多くした環境の中で、主体的に利用者が行動したり考えることを重んじていることや、失敗を通して社会の決まりを教えていく方法を学びましたが、組織や自分の役割を超えない仕事を求める企業との考えの差を同時に感じました。就労を目指した訓練の経過であることをご本人と共有し、企業文化を伝えていく必要性があるとも感じました。また、当事者と関わる際の、考え方や感情の持ち方など、自分自身の気持ちのコントロールや対応の方法を知る機会になりました。

<マッチングへの課題>

事業所で行っている仕事をベースに職種を考えている方が多く、職種の広がりやどのように持たせていくかに課題を感じました。

<見学を通して感じた課題>

どこまで訓練を積み重ねれば社会に出られるのかなど、企業と福祉の考え方に温度差があると感じました。また、就職する際、訓練経過や事業所の人材育成の理念を引き継ぎで共有する必要があると思いました。利用者全員が就職していない（できない）現実を知り、企業としての課題であるとも考えます。

我々雇用促進・就労定着プロジェクトでは、福祉サービスの皆さんとの協力なくしては、企業の障がい者雇用は進まない状況であると考えています。皆さんの力を借り、育てた人材をバトンタッチしていただける企業であるために、今後も我々の課題を模索していきたいと考えています。また、見学を通し、企業が求めたい人材や企業が考える常識についても改めて考えることができました。

詳しい内容は、11 月 14 日の第 2 回 帯広市自立支援協議会 就労・社会活動部会のパネルディスカッションでお伝えできれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。

雇用促進・就労定着プロジェクト